骨子表（2022 版）　鋼構造及びコンクリート　III問題用　（III－1）　令和 4 年度　膨大な構造物に対策優先順位付けを行うための課題

問題	問題分析	解決の方向性	実現上のハードル	リスク対応の具体策
現状の分析、あるべき状態との差異 立場を明確に	問題の発生原因 多面的に内容と共に示す	解決の方向性、すべきこと １つ挙げ複数の解決策を述べる	具体化した際に起こる別の問題（2 次リスク） ※共通して新たに生じるリスク	制限事項への対応も踏まえた具体的な提案内容 ※専門技術を踏まえて回答
対象：自治体が管理する道路橋 立場：道路管理者 ・高度経済成長期に構築された橋の老朽化が進行中 ・点検は一巡しており、5 年に 1 回の定期点検も行われている。 ・修繕が進んでいない ・劣化度 II の橋に対する予防保全が理想であるが、III や IV の橋に対する応急対応や事後対応を行うだけで精一杯 ・似たような劣化状況にある橋が多い	・正しい順位付けは、的確な点検診断に基づく必要がある。 ・業務担当者の技量、経験により判断が変わる。 ・マニュアル化されていない部分で顕著に起こる。 ・劣化度 II～III の橋が多い。 ・劣化度が同じ場合の順位付けが不明確。 ・対象数が多い ・人口減少や社会環境の変化で利用度が変化 ・周辺に代替可能施設が整備されているが、利用形態が見直されていない。 ・地方自治体の技術者不足、技術力不足 ・財政難	1. 点検診断の質の確保 1）ICT の活用（AI 画像診断、点検ロボット、DB 活用） ・的確で高精度な点検診断の実施 2）最新知見による点検診断マニュアル整備	技術のブラックボックス化 機器への依存、新たなマニュアル依存	技術教育の実施 （劣化メカニズム、点検手法、診断対策方法など）
		2. 対策優先順位付けの明確化 1）データの利活用（管理者、自治体間のメンテナンスデータの共有、インフラデータプラットフォームの構築） 2）各種バックデータの数値化（社会的重要度、劣化要因、再構築の難易度、予定供用期間）	データ管理に関するリスク（データ鮮度の確保、データの消失・改ざん） データ利活用におけるリスク（誤った解釈による利用、活用が進まない）	セキュリティの確保 確実なデータ更新実施 データ利活用手法、事例の提供
		3. 管理手法の転換 1）インフラの集約、再編 2）地域インフラ群再生戦略マネジメントの推進（管理者や自治体間の連携、点から群へのインフラ管理実施）	インフラシステムの冗長性、靭性の確保が困難となる	段階的なインフラ集約（性能の低減、次期更新の見送り） マスタープランや地域戦略に応じた対策の実施
		4. 人員、財源の確保 1）国による財政的、人的支援 2）PFI の活用	過度な依存の発生 当事者感覚の喪失	（管理者内での）教育の実施

参考：総力戦で取り組むべき次世代の「地域インフラ群再生戦略マネジメント」～インフラメンテナンス第 2 フェーズ～　R4.12